

1

審査結果

総 評

本アイデアコンペは、これまで大阪のまちを水害から守ってきた三大水門のうち、安治川水門について、そのリニューアル事業の一環として企画された、大変ユニークで珍しいアイデアデザインコンペでした。また、このようなコンペを大阪府という自治体を中心となって関係団体と共同主催し、今後の設計やまちづくりを考えるヒントにしていくというプロセスも、公共事業としては新しい試みとなっています。

また、水門単体だけでなく、弁天町周辺のまちづくりへの提案や安治川に沿った河川軸の魅力向上への提案など、幅広い提案を求める難易度の高いコンペでしたが、その要望にも見事に応えていただき、様々な提案をプレゼンテーションしていただきました。

各作品に対し、委員の間でも活発な議論が行われ、今後の安治川水門や地域の検討において、新たな提案や気づきを頂けたと思います。

本コンペに応募いただいた全ての参加者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

（久保田委員長）

最優秀賞

〈作品 011〉 海の手門

川村宣元（川村宣元建築設計事務所）

海の手門

市街地を抜け大阪城へとつながる安治川。
安治川の入口に建つ安治川水門は、水都大阪の海からの玄関であり
「海の手門」というのにふさわしい。
この地の歴史、文化を尊重し、そこから引き出されるデザインコードをもとに
未来につなげる提案をしたいと思います。



講評

安治川流域の歴史や文化特性に力点を置いた基本コンセプトを明確に示し、コンセプトに基づく水門や管理棟等のデザイン、各施設の位置関係や機能、構造、仕様の提案が具体的である。水域における船舶と護岸のスケールを関連付ける視点、葺屋敷船着場を模した川の駅のデザイン等がユニークであり、大胆さと現実性を兼ね備えたランドスケープが地域全体の活性化につながることを期待させる。

（岩田委員）

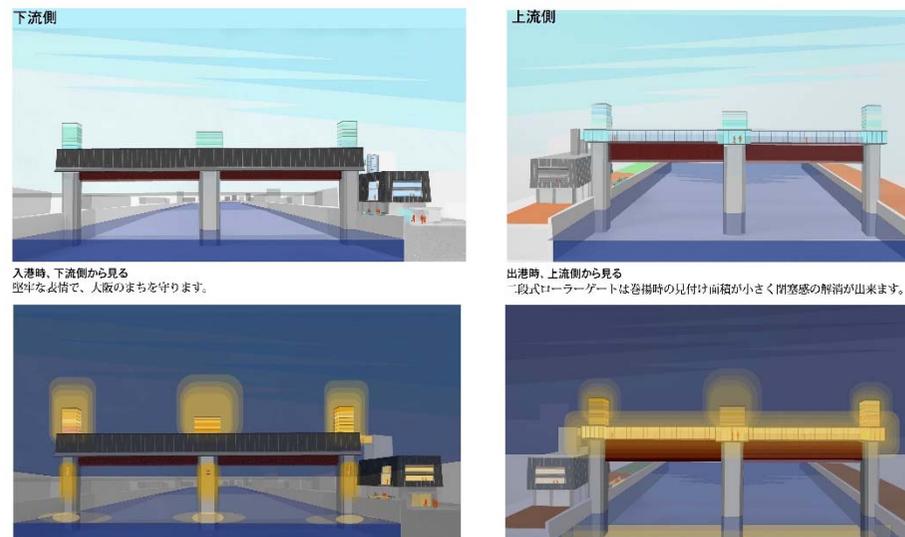
上下流側の視点を考慮したデザインや夜間照明を利用するなど、細かい工夫が感じられる。流域を現状の性質に照らし合わせて、エリアを分割し、河川の機能を見直していることに共感できる。また、隠れたるスケールという概念を利用した護岸デザインも具体的で秀逸である。

（山上委員）

安治川水門：「海の手門」昼と夜の表情

5

外に対しては堅牢に、内に対しては開かれ、二面性のファサードを持つデザインとしました



入港時、下流側から見る
堅牢な表情で、大阪のまちを守ります。

出港時、上流側から見る
二段式ローラーゲートは巻揚時の見付け面積が小さく閉塞感の解消が出来ます。

照明の点灯によって、上流側下流側同時、あるいは個別の点灯でその表情が変わります。
全点灯、朝晩等の点灯、連絡通路の点灯、門灯の点灯等、組み合わせで、様々なシーンで演出が可能となります。

弁天町エリア整備方針 3 弁天埠頭整備計画

10

- 目的化
弁天埠頭公園、緑地はオーク弁天商店街を通り道とした目的の一つになります。そのためには、行ってみたいと思う目的地的にはなりません。
- 現アーチ水門の保存
日本で唯一のアーチ型水門を顕彰し、実物を保存展示する公園とします。新安治川水門の完成後、撤去することになる水門ゲートを移設し展示します。単なる移設ではなく、オブジェ化し、アートとして位置づけることで付加価値を高めます。
- 公園名の改称
公園名称は公園、緑地あわせて「安治川水門記念公園」と改称し旧水門を顕彰します。弁天埠頭緑地のはトイレを整備します。
- Park PFI
公園にはPark PFIを利用し、カフェを誘致し、遊覧船の待合室を設置し、公園としての価値を高めます。



奇跡のアーチ水門である現安治川水門

- 川の駅
常設の川の駅とします。河川の船艇、舟之島、琴瀬の中間点にあり弁天埠頭エリアの再開発計画が進むにつれ重要性が増す施設といえます。



アーチ型の水門ゲートの設置による、道路を隔てた公園は一体のものとなります。弁天埠頭エリア再開発のシンボルとなります。



夜間景観
夜空に出現する明かりのリングは新水門が完成の後、かつての日本唯一のアーチ式水門の記憶を残すと共に、この地の新しいランドマークとなります。アーチ水門の文化財としての価値、地域資源としての価値は認識しなければなりません。設置は支柱や筋造などの設置を検討しますが、圧倒的な存在感は消えるものではありません。



優秀賞

〈作品 002〉 守り，干涉する すいもん

チーム名：ULD / 榎谷英弥（京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻）、畑喬介（同）、渡瀬遣太（同）、毛利祐輝（同）



講評

コンペの対象地区を越えて広域を視野に入れた上での提案が、お見事。空間的な広がりだけではなく、過去の歴史から未来への、時間的な視野の広さも素晴らしい。水門のデザインでは、避難場所としての水門というアイデアが興味深く、水門操作室の内部や、管理施設の提案も、災害時の実用性と、日常の楽しみ方が、よく考えられている。

（重山委員）

水門を中心に波紋が広がるような流線形のデザインが地域に統一感と伸びやかさを与えており、エリアのイメージを刷新する力を持っている。水門のランドマークとしての存在感だけでは無く、視点場としての魅力も高められており、水門を地域の魅力づくりや持続可能なまちづくりの中心施設としてとらえるスタンスが高く評価できる。

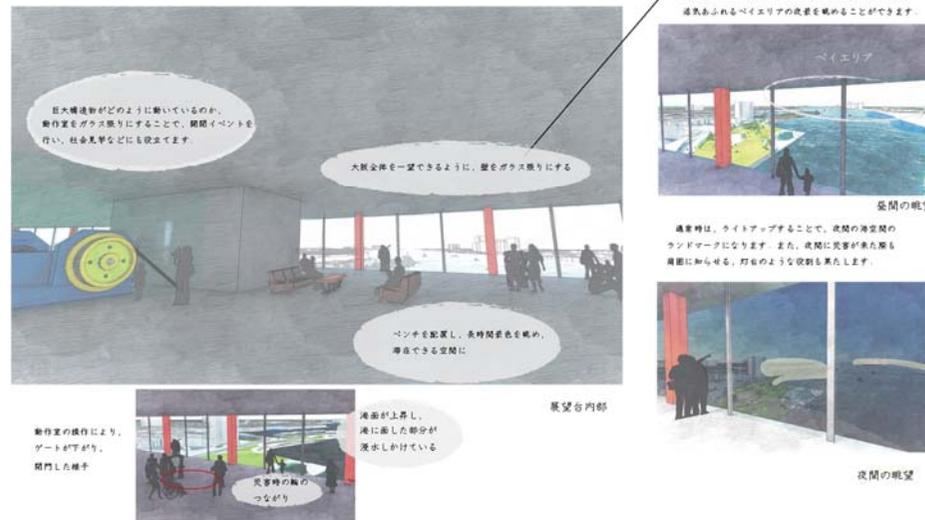
（武田委員）

5-1-2. 新水門の詳細

5-1. 提案 新水門

新水門 機能

展望台を完備することで、新水門自体を目的視し、大人から子供まで、多様な人が楽しめる空間にします。また、この空間は非常時には、避難所としての、重要な役割を果たします。

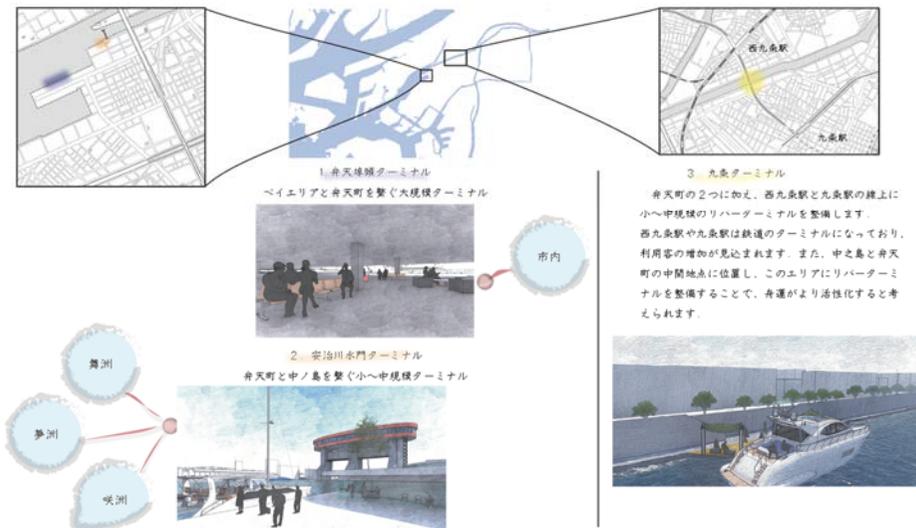


5-3-1. 安治川水域計画

5-3. 提案 安治川水域

安治川水域活性化計画

水都大阪計画の発展に寄与し、舟運の活性化を促すため、現在、開港の進む中ノ島へベイエリアまでの動線上に、3つのリバーターミナルを、整備する。



奨励賞※

〈作品 004〉

帰ってきた「まちみなと」 Benten Biennale

チーム名：NE-2

水野裕介（大日本コンサルタント株式会社）、
近藤美沙希（同）、坂元泰平（同）

講評

四半円形のガイドアーチに沿わせるケーブルを設けることにより、水門の頭部を軽い印象にしているのが特徴的。エリアを3つに分け、それぞれの特徴を掲げつつ、整備のロードマップが示されているのも良い。

（澤井委員）

※ 作品番号順に掲載



奨励賞※

〈作品 007〉

NEW GATE

ベイエリアと都心部を結ぶ場所

長谷川夏輝

（富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科）、
上埜由美子（同）、王永成（同学科 助教）

講評

水門の上部に遊歩道（展望橋）を設けることで、水門の施設見学や展望エリアとしても配慮されており、コストパフォーマンスにも優れていると考える。

（杉村委員）

NEW GATE

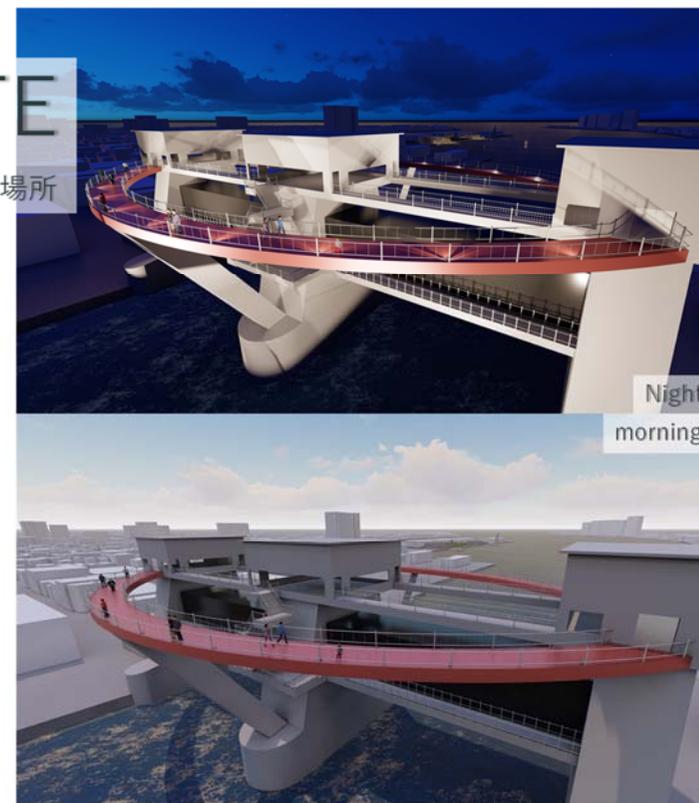
ベイエリアと都心部を結ぶ場所

安治川水門は、時代の変化とともに人々の生活に寄り添ってきた存在である。これまでも自然災害から人々の命を守るという縁の下の力持ち的役割を果たし、これからもその役割を担っていく。

そして近年の大阪の活発なまちづくりは安治川水門にこれまでとは異なる表舞台的な役割を与えようとしている。

それは人々を迎える新しい「門-gate-」下流側にあるベイエリアへ、または上流側にある中之島など大阪の都心部へ通じる門としての役割である。

本提案では、その両エリアを結ぶ場所として安治川水門周辺及び弁天埠頭を捉え、大阪のまちを陸上や海上で行き交う人々の交流そして余暇空間を整備する。



※ 作品番号順に掲載

奨励賞※

〈作品 008〉

BENTEN 2050

チーム名：ユーレイブール

小林諒（佐藤総合計画 / yuureibool）、
宇田川剛（同）、
田中達大（トライコーン株式会社 / yuureibool）、
木下翔太（ケーティーマシナリー株式会社 / yuureibool）

講評

暖簾のような水門デザインの発想や造形がユニークであり、提案のあった作品の中で唯一動画でのプレゼンとなっていた点も評価できる。水門の構造に関して、あと一步、検討がなされていると、なお良かったと感じる。

（久保田委員）



かつて港町として開発された町「弁天町」
2025年の大阪万博を機に、より国際的な交流・イベントの場としての価値が高まることが想定されます。
新・安治川水門をシンボルとし、商店街エリアを活性化、さらに都市全体で親水空間をデザインすることで
先進的かつエコフレンドリーな弁天町の未来像を提案します。

Contents

Masterplan

弁天町の未来像について

Watergate

水門のデザインと利活用

Shopping Street

新しい商店街のデザイン

Waterfront

まちと水辺の結節点

動画は公式ウェブサイトに掲載

※ 作品番号順に掲載

審査員特別賞

〈作品 010〉

「安治川いいであいプロジェクト」 提案書

チーム名：安治川げんきプロジェクトチーム

木村昌弘（大阪大学 工学部 非常勤講師）、
岡崎 善久（岡崎善久建築設計事務所 所長）、
加藤 創一（近畿大学 総合社会学部 総合社会学科
環境・まちづくり系）、
河西 茂行（地球デザイン研究所 所長）

講評

治水・維持・景観・利用・気候変動への対応等から総合的な比較検討を行い、水門形式を提案している点が優れている。現水門を残し、津波・高潮ステーションと一体的に運用し、防災教育等を行う点なども魅力的に感じる。

（澤井委員）

安治川水門周辺の整備イメージ図

